

令和7年度 第4回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和8年3月5日(木) 16:30～17:50
- 場 所 鳥取ワシントンホテルプラザ 若葉の間(対面会議)
- 出席者 小林朋道委員、寺口嘉昭委員、中山実郎委員、田中洋介委員、若原道昭委員、
山田修平委員、齋尾安広委員、澤 耕司委員、福嶋明子委員
[9名/10名]
山崎安造監事、北野彬子監事[2名/2名]
- 欠席者 平井耕司委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和7年度予算の補正について

事務局から令和7年度予算の補正について説明があり、案のとおり承認された。

(2) 令和8年度当初予算について

事務局から令和8年度当初予算について説明があり、案のとおり承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 人件費の支出予算減額とは具体的に何か。
- 予定していた人員の確保は出来ているが、教授で見積もった人員を准教授で採用したことと、非常勤講師の旅費が大きく下がったことが関係している。

(3) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程の一部改正について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程の一部改正について説明があり、案のとおり承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 授業時間の変更は大学院だけか。
- 学部も変更となる。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学嘱託職員就業規則の一部改正及び公立大学法人公立鳥取環境大学嘱託職員給与規程の制定について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学嘱託職員就業規則の一部改正及び公立大学法人公立鳥取環境大学嘱託職員給与規程の制定について説明があり、案のとおり承認された。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学非常勤講師就業規程の一部改正について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学非常勤講師就業規程の一部改正について説明があり、案のとおり承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 授業時間が変更になることに伴い、事務職員の勤務態勢はどう変わるのか。
- 基本的には変わらない。5限に非常勤講師のコマが入っているときには、勤務時間を繰り下げて対応している。
- ・ 授業の終了時刻が18時20分になることについては、学生に支障はないのか。
- 学生には既に通知している。メリット・デメリットはあるが、学生の主体的な学修を優先する方針で変更を行った。遠方から通っている学生は少人数で、影響が少ないことは確認済み。スクールバスの時間については、現在調整中。

- ・ 授業時間の変更について、昼休みの時間が50分になることについて教員の休憩時間が労働基準法に抵触しないか。
- 2限、3限2コマ連続の授業はない。本学の教員は裁量労働制を適用している。

3 協議事項

(1) 学部・学科再編構想について

事務局から学部・学科再編構想について説明があり、意見をいただいた。

〈主な意見等〉

- ・ 新たに保全生物学科の設置で教員は増えるのか、今いる教員が教えることは大変ではないか。
- 教員数は変わらない。在職している教員に合わせて保全生物学科という名称にした訳ではない。今鳥取県で何が必要なのか考えたときに、鳥取が非常に優れている自然資源や農林水産など、生物多様性が基盤となって産業が成り立つことが徐々に明らかになった。それらを保全しながら、農林水産業などを発展させていこうという方向性で検討した。そのためには、生物に関する基礎的な知識が必要と考えられる。地域の自然資源を大事にしながら、経営の地域資源を基盤にして発展させる学科にしたいという思いがある。- ・ このような学科は全国にどれくらいあるか。

→ 農学部には生物資源の学科はあるが、趣旨が異なる。現在問題となっている気候変動や生物多様性などをコンパクトに融合させた学科はない。そこをしっかりとアピールしていく。また、環境学部の中で、生物関係の志願者が比較的多く、鳥取の自然に魅力を感じる学生が多い。このことは大学の存続や県内への定着にも関わってくる。- ・ 今後のスケジュールについて、R10.4月の「完成年度（R14）以降の学部学科再編計画の検討」とは何を想定しているのか。

→ PDCA サイクルで回していこうという意図。

 - ・ 採用する先生も変わってくるか。

→ ぴったり合うような先生がかなりいる。何人かは新しく採用する必要があるかと。- ・ これからどのようにPRしていくのか。

→ 段階を分けて広報していく。ターゲットを明確にして、学校を訪問したり、イベントをしたり、HPの告知を充実させたり、様々なチャンネルを通じた広報が必要と考えている。新学科の設置は、受験雑誌にも出たりする。- ・ 言葉や文章よりも、動画でPRした方が良いのではないか。今現在その学科がないが、どうやって動画を作っていくか。

→ 例えば、サークルなどでぴったりの活動をしている学生がいる。そのような学生を登場させるやり方もある。AIを使った架空の学生を登場させたり、バーチャルリアリティの中で想定する風景を活用したPRなど、現実味のあるようなかたちでの動画による広報も可能かと思う。- ・ 令和9年入学の学生は、新学科に移ることができるのか。

→ 学科の特色を見て志望した学生のため、そのような事例は多くないと考えられる。現行のカリキュラムとオーバーラップする部分が大きく齟齬は生じない。学部内での変更であるため、科目履修で、その辺は補填できると思う。- ・ 大きく授業内容を変化させるというよりは、今までやってきたことを整理して分かりやすくすることが今回の趣旨であるように感じた。学科再編というと、「こんなに変化するとは」という意見を受けることもあるかもしれない。再編という言葉に敏感に反応される方もいると思うが、そういったことへの対応策は何かしら考えているのか。

→ 現在の方向性をより強化した部分を強調するとか、丁寧に説明するとか、説明の仕方だと思う。県内高校の校長会で趣旨を説明してヒヤリングしてきた。そういうことも含めて、分かりやすい説明になるように十分配慮していく。

- ・ 経営学部の変員が20名減るが、そこは大丈夫か。
- この案について、経営の人数が減ることも含めて、商工会議所や金融機関などに対しても、早め早めの段階で説明している。学校現場、校長会に対しては、もっと早い段階で示している。県・市の常任委員会でも説明された。そういうことを今後も繰り返しながら、いきなりにならないように、積み上げていきたい。

4 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学学則の一部改正について

事務局から公立鳥取環境大学学則の一部改正について報告があった。

(2) 教員の採用及び昇任について

事務局から教員の採用及び昇任について報告があった。

(3) 令和8年度教学体制について

中山理事・副学長から令和8年度教学体制について報告があった。

- ・ これは学長の指名制か。
- 委員会等でもかけるが、学長の指名制。

(4) 近況報告

事務局から近況報告があった。

- ・ 県内就職率について、県との現在の目標である30%はどのような感じか。
- 最新の状況では、全学で就職内定率96.0%。県内企業内定率は、22.3%。

5 その他

6 閉会